



空間 NPO 会報

第64号
2019年1月

発行 特定非営利活動法人 女の空間NPO
〒153-0061 東京都目黒区中目黒1-4-18-401
TEL&FAX 03-3711-5054
発行人 長沖曉子

office@space-for-women.org
http://www.space-for-women.org

定例会

- 2月 3日(日) 13:30~16:00
 - 3月10日(日) 13:30~16:00
 - 4月14日(日) 13:30~16:00
- * 日時が変更となることもありますので、ご出席の方は直前にお確かめください。

おしゃべり会

- 1月 (休会)
- 2月11日 (月・休)
13:30~16:00
「成年後見制度から考える
~私たちが欲しい支援 Part VII」
担当: 長沖、丸山
- 3月17日(日)13:30~16:00
「女性監督の映画を観て話そう
Part 5」
- 4月7日(日)13:30~16:00
「女たちの看取り」
お話: 高木澄子さん

女の空間カフェ

第2月曜日 14:00~21:00

- 2月11日
 - 3月11日
 - 4月 8日
- * 会場: 女の空間NPO事務所
* 予約は必要ありませんが、初めていらっしゃる方はメールでご連絡願います。
office@space-for-women.org
* 詳細は最終ページ、またはwebサイトをご参照ください。
http://www.space-for-women.org

大島さんのぺしゃんこ靴

深澤 純子

駅から定例会の集合時間目指して歩く。女の空間のドアを開けると玄関の三和土に無造作に脱ぎ捨てられた大島さんのぺしゃんこ靴。部屋の奥から掃除機の音がする。メンバーの誰より早く着いた大島さんが掃除機をかけているのだ。

シーギリアンロック*に登る

2011年2月女の空間会員のジャーナリストS.カクチさんにくっついて、スリランカを訪れた。急遽大島さんも一緒にいくことになった。飛行機が後30分で到着するところ入国審査用の書類が配られる。私は職業欄にばか正直にNPOスタッフと英語で書いてaをつけた方がいいだろうと頭を絞っていたのだが、大島さんは、「こういうときはこう書くの」と、housewifeと書いて笑った。私は思わず、「それってずるくないですか」と言った。私はそういう身分を持っていない。ある時、前衛映像作家のIさんにそのことを言ったら、Iさんも「私もよくそうするわ」と言って笑った。

主婦という肩書きは使い手があるらしい。知らなかった! 私はそういう二重の使い方については気がつかなかった。housewifeとそうじゃないグループに分けられていて、多くはhousewifeではない人がグループから排除されている。まさかスリランカ国際空港の入国審査をする系の女性たちは大島かおりという日本で著名な翻訳家であることを気がつかないだろうが。

最終目的地はカクチさんが全面的に支援している裁縫センターのあるジャフナ(スリランカの北西部)である。途中、行きには世界遺産のシーギリアンロックを見物した。それは、ジャングルの中にそびえる高さ100メートルの奇岩である。そこを登る時、大島さんの後について登った。私の目の前には大島さんがあの見慣れたぺしゃんこ靴で奇岩を登っていく。その時私はこの光景を目に焼きつけておこうと思った。私は息があがらないように気をつけながら大島さんのあとをついて行った。

もう一つ訪れた世界遺産はキャンディの仏歯寺という大きなお寺であった。そこでも大島さんは精力的に歩いた。文字通り大島さんの"後塵"を拝して"いた。これからも大島さんの背中を見て歩いて行きます。大島さんのぺしゃんこ靴は網膜に焼き付いています。

大島さんさようなら、そしてありがとう

大島さんに会いたいです。今度会う時もあのぺしゃんこ靴を履いてくるんですかね。大島さんと会えなくなってからいろいろ質問したいことや大島さんの意見を伺いたいことがたくさんあります。長身で白髪短髪の女性を街で見ると大島さんが懐かしくて胸が痛くなります。

大島かおりさんにもう二度と会えません。私たちはお礼を言うこともいろいろおたずねすることもできません。もしも会えるとしたらきっとあの靴で現れることでしょう。こうして、つたない追悼文を書いているだけで大島さんに会いたい気持ちがあふれてきます。大島さんありがとうございました。これからは私は大島さんの背中を見ながら歩いて行きます。

* 通常はシーギリヤロックと表記されることが多い。

『大島かおりさんを偲ぶ会』 報告



11月11日（日）午後文京区民センターで「大島かおりさんを偲ぶ会」が行われました。約40名の人々が集まり、長沖さんによる司会で、ゆかりのある方々によって、かおりさんとの縁や親交のエピソードなどが話されました。倒れられてから3年間お会いすることが叶わなかったのも、私の中では「偲ぶ気持ち」がなかなか湧かないでいました。けれども集まってくださった皆さんそれぞれの故人への想いが周囲に溢れてきて、徐々に非日常の別世界にいるような気持ちになっていきました。何か「トトロの世界」にでもいるような……。広い部屋のスクリーンには大島さんが映し出され、テーブルには写真と「FGM廃絶を支援する女たちの会」から送られた花。そして二つのグラスには白と赤のワインが供えられました。本当に活力に満ちた方でしたもの。



大島さんは「翻訳者は『黒子』だから」と言われていましたが、表に出ることを決意されていたらとんでもない人物になっていた可能性があったのではないのでしょうか。「私は（翻訳の仕事を）40歳から始めたのよ」と就職に悩んでいた私を元気づけてくださったことがありました。偲ぶ会で、出版社の方のお話を聞いて、大島さんが超一流のお仕事をされていたことを知った私ですが、臆面もなく「リズムが良い訳ですね」と感想を言っても、それを受け入れてくださるような気さくな方でした。また、優しく（時には厳しいことも言われたそうですが）誰からもとても尊敬されていました。

「偲ぶ会」で語られたことの中には、大島さんがどんなに素晴らしい人であったかという話と、知られざる一面の暴露を楽しむようなエピソードもあって、大島さんをこよなく愛する人々が集う場であることが温かく身に沁みました。最年少の発言者の方が、大島さんに呼びかけるように話されていたのが心を打ちました。もう呼びかけるだけなのだなあ。返事が欲しい。もう一度お会いしたいと私の気持ちはふわふわと漂いながら、皆さんのお話を遠くに聞いているうちに、いつのまにか偲ぶ会の時が過ぎていきました。

（位高美代子）



《《おしゃべり会報告》》

10月28日(日) 13:30~16:00

「成年後見制度から考える

～私たちが欲しい支援 PartVI」

成年後見人は、成年後見人制度の三つの理念(①自己決定の尊重 ②残存能力の活用 ③ノーマライゼーション)に基づいた対応が求められている。では、後見人が行う身上監護とは何か。食事を作ったり食べさせたりすることではなく、食べられるよう手配・契約・確認することです。アセスメント、方針策定、手配の法律行為を適切に行うための準備。契約は法律行為。契約の履行状況の確認。見守り、契約の履行。支援の見直し、再契約、解約、苦情申し立て等を行います。

後見人の被後見人を支える立ち位置は、行政機関、地域住民、友人・知人、地域包括、社会福祉協議会、医療機関、訪問サービス、通所サービス等と地域連携ネットワークづくりをすること。これが必要になってきていると言われています。

被後見人にならなくても、私たちが欲しい支援の一つにこれがあるかもしれません。まず社会資源として現在ある制度を知ることでしょう。思っている以上に欲しい支援は既存の制度の中にあるのかもしれませんが。知らないために苦むことがあるのとしたら、それは損失ではないでしょうか。

おしゃべりしながら、私が欲しい支援って、私たちと関わりのある人や周りの人への支援も、私たちの欲しい支援でしょう。

また高齢になった親の介護が喫緊の問題になっている方もいます。遠距離や中距離と近距離ですが親と離れて暮らしており、働きながら介護支援をしなければならぬ現状をどうしましょう。今、私に支援がほしいのです。ひとりで問題を抱え解決しようと追いつめてしまう私自身がいるかもしれません。話すことで情報が得られたり、気がついたことがあるのではないのでしょうか。ぜひ、遠・中・近距離介護経験者の方のお話を聞く機会を作りたいと思うおしゃべり会でした。(のりこ)

12月24日(祝) 13:30~17:00

「恒例 女の空間 望年会」

1年を振り返り来年はこうしたいとおしゃべりする望年会。今年は女の空間の存在を知ってもらおう、会員を増やそう。方向性が見えました。

~~~~~

会員募集&会費納入のお願い

女の空間NPOは、女たちが安心して集える場を提供いたします。この場を維持するため、ぜひ会員になってください。空間利用につきましては、HPをご覧ください。

入会金 6,000円 年会費 6,000円

郵便振替口座 00170-0-561307

口座名 女の空間NPO

## 》》おしゃべり会予告《《

2月11日(祝) 13:30~16:00

「成年後見制度から考える

～私たちが欲しい支援 PartVII」

担当:丸山さん

PartVIでは、「身上監護」とは何を指すのか。成年後見人制度の三つの理念があり、現場で実行していく指針であることを知りました。今回は「私たちが欲しい支援とは」を少し拡大して、私の周りの人や親族や大切な人、友人を含めて、私たちが欲しいのはそれらの方々に対しても欲しい支援ではないかとも思います。話してみませんか。初めての方の参加はいつでも大歓迎です。お待ちしております。

3月17日(日) 13:30~16:00

「女性監督の映画を観て話そう Part5」

普段どの映画を見るか作品を選ぶとき、あなたが気にする要素はなんですか?お気に入りの俳優が出ているから、映画祭で受賞した監督・作品だから、テーマが気になる、原作(小説や漫画)が好きだから・・・理由はいろいろ。

女性監督の作品を選んで、みんなで観る5回目。今回もどんな映画になるか、来てみてのお楽しみ!

4月7日(日) 13:30~16:00

「女たちの看取り」

お話:高木澄子さん

一人暮らしの女の最後を、4人の女たちがチームを組んで見送りました。そこで何が問題になり、どのように解決したのか、メンバーの一人の高木さんにお話ししていただこうと思います。彼女たちの体験をお聞きすることで、私たちが今後どう他の女たちを支え、自分の準備をしておくのか、たくさん考えることができると思います。



【編集後記】

「風邪を引かんように。またおいなんよ。」帰省から戻る時、母はいつも玄関から外に出て見送ってくれた。この正月は初めてそれができなかった。ベッドに横になったままの母に「また来るね。暖かくしとってや。」と声をかけて出てきた。私は母と同年代の大島さんを離れて暮らす母のバロメーターにさせてもらっていた。その大島さんが逝去。あなたも覚悟しなさいと教えられた。これからどう生きたいのか、自分自身と真摯に向き合う1年にしようと思います。

(木下禮子)